

旧国鉄手宮線で巡る外国人観光客のための小樽散策マップ作成プロジェクト

プロジェクト代表者：井上 典子

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトの取組は、小樽市教育委員会と小樽市の依頼により、本学学生の学習活動の一環として、小樽市内に残る産業遺産である旧国鉄手宮線散策路とその周辺を外国人観光客に紹介する英語版観光マップを作成することです。本プロジェクトの目的は主に2つあります。まず、学生が小樽市の観光担当職員や民間の観光関連事業者などと連携し、実体験を取り入れた学習を通じて、小樽市の基幹産業である観光への知識と理解を深めながら英語運用能力の向上を図ること。そして、これまで旧手宮線をキーにした観光ガイドマップは作成された例がなく、運河や堺町だけではない小樽観光の魅力を、増加を続ける外国人観光客に発信することで回遊性を高め経済効果に繋げることです。また、学生は自分たちが作成したマップが外国人観光客に使われ、小樽の観光振興に寄与することで大きな達成感を得ることができ、今後の学習意欲向上や就職活動にも良い影響を与えるのではないかと期待しています。

2. 具体的な取組内容

2016年6月より取組を開始しました。まずはマップに反映させるための現地調査を繰り返し行い、マップに記載すべき博物館などの施設や文化遺産、観光施設、飲食店等をピックアップしました。8月末には、小樽運河等で外国人観光客へのアンケート調査も行いました。9月以降、調査内容などを整理し、協力者の監修を受けながらマップに載せる箇所の選定とレイアウトの決定、日本語版の作成を開始し、11月には日本語版を完成させました。その後、英語への翻訳作業を開始し、随時、協力者の監修を受けながら、校正作業を繰り返し行い、2017年2月に英語版が完成しました。

平成26年度より毎年、英語観光マップを作成してきていますが、今年度のマップでは、今までの観光マップをさらに「進化」させたいと思い、新しい発想を取り入れました。それは、手宮線の歴史や古い映像など、マップで説明しきれないことを紹介するために、新たに英語の動画を制作した点です。マップ上に印刷されたQRコードを読み取ることで、学生たちが英語で紹介・解説を行う動画を見ることができるよう工夫を凝らしました。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

小樽市には旧手宮線をキーとした観光パンフレットは存在していませんでした。2016年度は寿司屋通りから総合博物館本館までの散策路の内、博物館側の最後の部分の工事が終わって全線が開通することになり、手宮線を小樽の観光資源として改めて発信する絶好のタイミングであると考えました。そこで、手宮線を使って、歩いて小樽観光を楽しむことができるような英語版沿線紹介マップを作成し、外国人観光客の回遊性を高めることにより、運河や堺町だけではない小樽の魅力を外国人に伝え、滞在時間を伸ばすことにより、経済効果を高めることが期待されます。また、このマップを市外での観光キャンペーンなどに使用することで、リピーターの来樽意欲の向上にもつながるのではないかと期待しています。

学生においては、実際に小樽観光の最前線で求められている観光案内ツールを自らの手で創意工夫しながら作成したことで、単に学習効果だけではなく、職業訓練の意味でも大きな成果があったと感じています。さらにプロジェクト参加による社会人との交流、英語運用能力の向上などについても学生生活において得難い経験のチャンスを提供する機会となったのではないかと考えています。

